



〈広島城天守閣と広島護国神社を望む(令和7年1月)〉

ご挨拶
宮司 藤本 武則

今年には終戦八十年という節目の年にあたり、畏くも天皇陛下におかせられましては全国五十二社の護国神社に対して幣帛料を御下賜遊ばされました。当社は十月十九日、終戦八十年記念秋季例大祭に併せて天皇陛下幣帛料御下賜臨時奉幣大祭として斎行いたしました。

御祭神にはさぞかしご感応の事と拝察いたしますとともに真に光栄なことと、皆様とともにお慶び申し上げます。

終戦八十年の節目の年、畏くも天皇皇后両陛下におかせられましては、「慰霊の旅」として四月七日に硫黄島へ、六月四日五日には沖繩へ、九月十二日から三日間に亘り長崎へ、広島には六月十九日二十日に行幸啓遊ばされ、原爆犠牲者の慰霊と、今なお原爆症で苦しんでいる被爆者のお見舞い、そして平成二十六年八月の土砂災害の復興の地へお立ち寄りになりました。

その折、両陛下には当社に対して幣餼料を御下賜遊ばされましたので、今までの例にならい六月三十日、幣餼料御下賜奉告祭を斎行し、謹んで御神前に奉奠し、御祭神にご奉告をさせていただきま

一年に二度も御下賜の栄に浴しましたことは、真に光栄、恐懼の極みと存じます。

陛下は常に国民と共にあって「国安かれ、民安かれ」という昭和天皇や上皇陛下の大御心を継承され、令和四年九月十二日に行われた日本遺族会創立七十五周年記念式典へのご臨席に際して、そのお言葉の中で

「先の戦争の記憶が薄れようとしている今日、戦争により深い悲しみを経験された方々の平和な世界の実現への強い願いが、戦争を知らない世代に広く伝えられていくことが大切であると考えます」と述べられています。

国民の八割以上が戦争を知らない世代となっている中、「知っていますか

命をかけて私たちを守ってくれた人たちのこと」とは全国護国神社會で作成したポスターの標語であります。

常に英霊の気高い精神とご遺徳を偲びつつ、今日の平和と繁栄は、遺族の哀しみの上にあることに思いをいたし、未永く護国の英霊に安らかにお鎮まりいただく為にも、皆様とともに慰霊と感謝の誠を捧げて参りたいと思います。